

## 恐竜が卵を抱いたことを示す地球化学的証拠

鳥類は、巣に産んだ卵を抱いて暖め、短い期間で孵化するように世話をする習性がある。鳥類の祖先である恐竜も卵を抱いて暖めるといった子育てをしたのだろうか。恐竜にはさまざまな分類群があるが鳥類の祖先に近いオビラプトルなどの化石には、巣のなかで卵を抱いた状態の化石が発見されている。その性別を調べた研究からは、鳥類と同様にオスが卵を抱く傾向があることも示唆されている。

フランス国立化学研究センターのロマン・アミオらフランスと中国の古生物学者たちは、中国南部で発見された 7000 万年前のオビラプトルの卵 7 個と胚の骨の酸素同位体比を分析した[1]。酸素同位体比は地質温度計として使われているもので、古生物学者たちは分析データからそれらの温度が 35-40℃に保たれていたと推定した。この温度は親鳥が抱いている卵の温度と同様であり、恐竜が抱卵していたことを示す新たな証拠であるとした。

恐竜の卵が孵化するまでに要する時間は数ヶ月と長かったとする研究がある。卵の時期が長いと外敵に襲われる危険性が高く、親が抱卵して孵化までの時間を短くし、抱卵することで外敵からの攻撃を防いでいたのかもしれない。

[1] Amiot, R. et al. (2017) *Palaeontology*, DOI:10.1111/pala.12311.